

## 今日のお話

### 《沖縄県における麻疹（はしか）流行と対応》

沖縄県では、1998年（平成10年）から2001年（平成13年）に2回の流行があり、9人の乳幼児が犠牲になりました。これを機に、沖縄県では全国に先駆け、はしかの根絶を目指して「県はしか0（ゼロ）プロジェクト」を発足させ、4年後の2005年（平成17年）には、はしかゼロを達成しました。

一方、日本国内（内地）でも、2007年（平成19年）に10代、20代を中心とする流行が起こり、2012年（平成24年）までにはしかを排除するための取り組みが行われ、2010年（平成22年）5月を最後に日本における土着の麻疹ウイルスは検出されなくなり、2015年（平成27年）3月に世界保健機関（WHO）からも、日本ははしかの排除状態にあると認定されました。

しかし、現在でも海外の多くの国で流行しており、海外からの帰国者や旅行者によってはしかが持ち込まれ、日本国内で流行が起きています。現在、沖縄県内で流行しているはしかも台湾からの旅行者に端を発しています。

はしかが流行する原因として、次のようなことが挙げられます。まずは、感染経路が空気感染であること。すれ違うだけで感染するとも言われています。また、感染経路は空気感染だけではなく、飛沫、接触感染もあります。そして感染力が極めて強く、はしかに対して免疫がない人が感染すると90%以上が発病します。発病の初期症状は、発熱、咳、鼻水などといった風邪のような症状であり、この時期が最も感染力が強いとされており、はしかであることに気付かないまま行動することで感染を広げてしまうのです。3～4日目に一旦熱が下がった後、再び高熱とともに発疹が出ます。

はしかの特効薬はなく、肺炎や脳炎のような合併症を起こさなければ、7～10日後には回復します。はしかを予防する唯一の方法が、麻疹ワクチンを接種し免疫を獲得しておくことなのです。1978年（昭和53年）に麻疹ワクチンの定期接種が始まりましたが、この時は1～7歳半の1回のみで、2006年（平成18年）から1歳と小学校入学前の2回接種となりました。現在流行中のはしかに罹った人たちのワクチン接種歴をみると、70人中21人が未接種か1回のみであり、40人は接種歴が不明となっています。

母子手帳（母子健康手帳）は、予防接種の履歴が書かれたとても大切な物です。進学（特に医療系）や海外留学時に接種歴を求められることもあります。お子さんが実家から離れる（結婚する）時は、母子手帳も一緒に持たせてあげるようにしましょう。